NIPPON SHOKUBAI CO., LTD.

会社案内

株式会社日本触媒

大阪本社
〒541-0043
大阪市中央区高麗橋 4-1-1 興銀ビル
TEL 06-6223-9111

東京本社
〒100-0011
東京都千代田区内幸町 1-2-2 日比谷ダイビル
TEL 03-3506-7475
https://www.shokubai.co.jp

2024.6.3000

日本触媒

日本触媒に
聞いてみよう！

毎日の暮らしを快適にしたいと願うとき、

社会を豊かにしたいと望むとき、

私たち日本触媒を思い出してください。

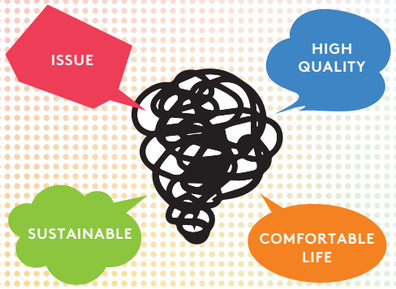
お悩みや想いをぶつけてください。

課題について対話を重ね、提案し続けることで、

製品の性能や品質向上に応え、実現困難なアイディアも商品化へと導きます。

化学の可能性に挑み、提案力を強化・進化させ続ける日本触媒に

どんなことでもご相談ください。



×

日本触媒

=

01

課題に挑むなら

（課題把握力＋研究開発力）

お客様の課題や市場ニーズをいち早くキャッチする課題把握力。
新規技術の獲得・次世代材料の創製を担う
コーポレート研究やお客様のニーズに迅速・的確に応える
事業部研究などの研究開発力。
この2つの強みこそ、
課題解決に向き合う「提案力」の礎です。

お客様や市場の課題を的確に把握・分析し、最適なソリューションへと導く

社員の４人に1人が研究開発員

社員の「4人に1人」にあたる約600名の研究開発員が、他部門との連携の中でさまざまな提案を重ね、新しい素材を世の中に送り出しています。日本触媒はこれまで、3つのコア技術「無機触媒」「有機合成」「高分子」を軸に技術の融合・深化を繰り返し、世の中の課題を解決する付加価値の高い製品を創出してきました。世界トップクラスの研究開発力で、これからもお客様の課題解決に挑み続けます。

データサイエンスによる研究開発の加速

情報技術と化学的な専門知識を融合することで、データ駆動型の材料開発やプロセス開発を推進し、お客様のニーズに対してスピーディーに対応します。そのために、実験とデータ解析の両方をこなせる研究員の育成や実験データを一元管理するための基盤構築に注力しています。また、お客様への提案力を高めるために、ニーズ情報とシーズ情報をマッチングさせる新たな仕組み作りにも挑戦しています。

事業創出を推進するオープンイノベーション

他社と差別化できる技術の獲得や事業化の加速を目指して、国内外の大学、研究機関、スタートアップ企業との協業をはじめとするオープンイノベーションを推進しています。代表的な取り組みのひとつが、大阪大学大学院工学研究科内の日本触媒協働研究所の設置。大阪大学の強みである医工連携分野と日本触媒が保有する技術を融合させ、さらなる技術・事業の創出、人財の育成を目指しています。

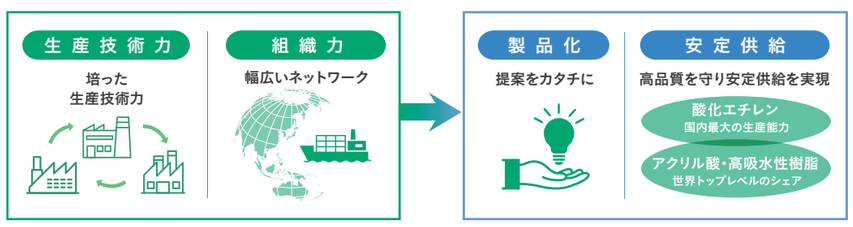
02

安定・高品質なものづくりなら

（生産技術力＋組織力）

提案をカタチにし、
お客様への安定供給を可能にしているのが、
日本触媒の生産技術力と組織力です。
自社で設計したプラントを操業することで培った
高品質な製品を安全に安定生産する技術力。
それを支える国内外の密接かつ幅広いネットワーク。
この生産技術力と組織力が
思い描いたものづくりを支えています。

高品質な製品の安定供給を実現する、日本触媒の強み



生産技術力

設計から関わるプラント建設

日本触媒では、自社プラントの設計・建設にも妥協しません。通常、外部業者に委託する設計、建材・装置の調達、施工管理などの工程にも、自社のエンジニアが積極的に携わることで、生産技術とエンジニアリングのノウハウを社内に蓄積しています。自ら携わることで、より高度な品質・生産能力を実現、プラント稼働後の円滑な改善・改良が可能となります。また、海外でのプラント建設においても、スムーズな完工・生産開始を実現させています。

研究と生産現場の連携による徹底したスケールアップ実験

ラボで生み出された高機能・高品質な化学素材を安全かつ安定して量産していくためのプロセス設計にも豊富な知見を有しています。研究部門と生産部門の密接な連携による徹底したスケールアップ実験を繰り返すことで、安全で最も効率的な生産プロセスを探ります。

自社設備で原料から一貫生産

主力製品である高吸水性樹脂を中心に、高品質な化学素材を自社設備で原料から一貫生産しています。自社一貫生産により、社会変化による需要変動にもタイムリーに対応でき、製品の安定供給を可能にしています。

組織力

世界トップレベルの生産量と安定供給を可能にするネットワーク

世界6拠点に工場を持つ幅広いネットワークにより、高吸水性樹脂とその原料であるアクリル酸において、世界トップレベルの生産量と安定供給を可能にしています。安定的な設備の稼働はもとより、複数ロケーションによる安定供給によって世界各地の需要に柔軟に対応。物流の面からも安定した製品の提供を実現させています。

03

サステナブルなら

未来に向けて私たちが取り組むべき課題は、
多様性を増しています。
原料のバイオマス化や
水素社会の実現に貢献する素材など、
日本触媒は環境の保全と暮らしの発展の両立を
目指しています。

建築物の強度や耐久性を向上し安心の未来を築く

コンクリートの強度向上や、外壁の耐久性向上など、日本触媒の素材は建築物の劣化防止や災害に強い都市づくりに貢献しています。大型橋脚から戸建て住宅まで、現代の建築現場において幅広く使用され、社会インフラを支えます。

原料のバイオマス化を強力に推進

環境負荷軽減のため、アクリル酸や酸化エチレンなど主力製品のバイオマス化を推進中。たとえばアクリル酸では、触媒設計と量産技術を活かして新製法の開発に取り組み、2030年までの実用化を目指しています。

水素社会の課題を解決クリーンエネルギー利用拡大を牽引

グリーン水素製造のための部材や水素キャリアであるアンモニアの活用に必要な触媒を開発し、水素エネルギー実用化の課題を解決。クリーンエネルギーの利用拡大でCO_2排出量削減を牽引します。

04

快適な暮らしなら

私たちの暮らしにとって、なくてはならない化学。
毎日使う電子デバイスや化粧品、
育児・介護に必要な紙おむつなど、さまざまなものに使われ、
日々の暮らしと密接に関係しています。
日本触媒は生活のさまざまな場面を支え、
暮らしをより豊かで快適にする多くの製品を
生み出し続けています。

世界トップクラスの生産量で人々の快適な暮らしを支える

日本触媒が世界トップクラスの生産量を誇るアクリル酸は、高吸水性樹脂や塗料、粘接着剤、洗剤などの原料として幅広く使用されています。なかでも日本触媒の高吸水性樹脂生産量は世界最大（自社調べ）。その優れた吸水性能によって、紙おむつ、保冷剤、カイロなど幅広い分野で利用され、快適な暮らしを支えています。

独自技術で開発した素材でエレクトロニクスの発展を促進

光学フィルムやカラーフィルター、シール材、光源などのエレクトロニクス関連材料にも日本触媒の製品が使用されています。長年にわたって培ってきた独自技術で、急速に発展するエレクトロニクス業界を支え、快適なデジタル社会の実現に貢献します。

健康や美に貢献するライフサイエンス事業を育成

日本触媒では、オープンイノベーションによる新しい技術の吸収も積極的に行っています。それらと自社技術を融合し、中分子医薬の受託製造や創薬支援、次世代化粧品素材開発など、新しい技術の獲得と事業化を進めています。

お客様と世の中の課題に挑み、生み出してきた製品たち。

お客様の課題を解決するために、市場ニーズをとらえ、
提案力と生産技術力・組織力の融合・進化に挑み続けた結果、
私たちはいくつもの「日本初・世界初」を生み出してきました。
1941年に日本ではじめて無水フタル酸の工業化に成功して以来、
いち早くお客様の課題解決に貢献し、
付加価値の高い製品を創出し続けています。

1941

日本初

無水フタル酸の工業化に成功

自社開発のバナジウム触媒でナフタレンを酸化する技術により、日本で初めて、無水フタル酸の工業化に成功しました。当初は、航空機塗料や合成樹脂の原料として需要を伸ばし、戦後は、塩化ビニル樹脂には欠かせない可塑剤として、塩化ビニル工業の発展に貢献。国産技術による化学品製造会社の基礎を築きました。

1959

日本初

酸化エチレンの工業化に成功

当時は石油化学工業の企業化の多くが海外技術に依存する中、独自の接触酸化技術を活用し、日本初の純国産技術による酸化エチレンの工業化に成功しました。これにより、日本の石油化学工業の発展に大きく貢献し、現在では、酸化エチレンはポリエステル原料をはじめ、建設資材や洗剤原料などに幅広く用いられています。

1970

世界初

高吸水性樹脂の大規模生産に成功

1985年にアクリル酸を原料として、高吸水性樹脂「アクアリック®CA」の大規模生産を開始して以来、技術・生産ともに世界をリードしてきました。高吸水性樹脂は1gで100～1,000gもの水を吸い取る吸水性と保水性に優れた樹脂で、主に紙おむつに採用され、人々の生活の質向上に貢献してきたほか、砂漠化防止にも活用されています。

1985

世界初

アクリル酸の新製法を開発

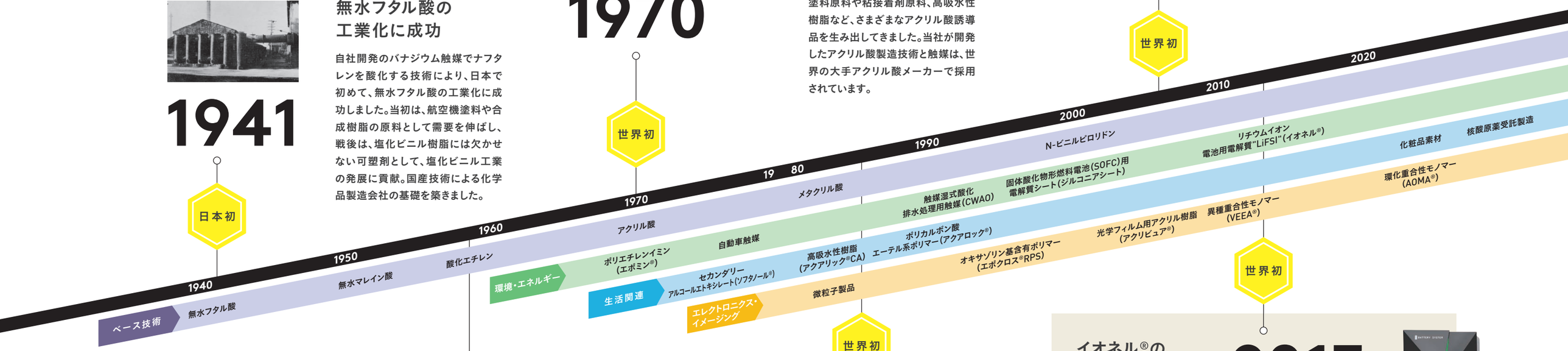
世界で初めて、プロピレンの直接酸化技術でアクリル酸を工業化しました。これにより、低コストかつ大規模でのアクリル酸の製造が可能となり、塗料原料や粘接着剤原料、高吸水性樹脂など、さまざまなアクリル酸誘導品を生み出してきました。当社が開発したアクリル酸製造技術と触媒は、世界の大手アクリル酸メーカーで採用されています。

2006

世界初

アクリビュア®の商業生産を実現

新規ポリマー設計技術により、高い透明性と、光学特性、耐熱性を兼ね備えた、従来にはない光学フィルム用アクリル樹脂「アクリビュア®」の企業化に成功しました。アクリビュア®はテレビやスマートフォン、タブレット端末などの液晶ディスプレイの高性能化（大型化・薄型化）に大きく貢献しています。



2013

世界初

イオネル®の量産化技術を確立

独自製法により世界初の量産化技術を確立し多数の特許権を取得した「イオネル®」（高純度LiFSI）は、リチウムイオン電池の電解質として使われています。広い温度範囲で、電池の寿命、入出力、保存安定性および膨張抑制に効果を発揮します。

電気自動車（EV）の課題を解決、普及加速に貢献

イオネル®は、需要が急拡大するEV向けにも採用されています。日本触媒グループは地産地消をイオネル®の基本戦略とし、中国をはじめとするEV需要地での生産・販売体制を早期に確立、世界展開を加速しています。

地球を救う化学

環境・エネルギー

独自の技術と開発力で環境負荷の
軽減とエネルギーの課題に取り組み、
持続可能な社会の実現を目指します。

水

世界の水問題を解決

有害物質を効率よく除去する排水処理技術や次世代の海水淡水化技術により、
年々厳しさを増す排水規制・水不足に対応。世界の水問題解決に貢献しています。

エポミン®・HIDS®

水中の金属イオンと結合する能力を活かし、有害重金属の除去や希少金属のリサイクル、界面活性剤の洗浄力維持などに使用されています。

アクアリック®L

故障の原因となるスケール（水中の難溶性塩が析出したもの）を防止する薬剤で、ボイラーや冷却塔の配管閉塞、装置の効率低下を防ぎます。

環境浄化

高効率・低コスト・環境にやさしい浄化処理

欧州を中心に環境規制が進み、排ガス・排水処理方法の
見直しや処理水の再利用などへの関心が高まっています。
日本触媒は、触媒技術を活かした環境浄化に貢献しています。

NOx ››› ››› N_2

排水処理触媒

触媒湿式酸化排水処理用触媒（CWAO）

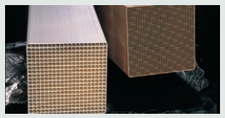
独自開発の固体触媒を用い、排水中の有害物質を効率よく酸化・分解。分解時に発生する熱を有効利用し、焼却処理方式に比べてCO_2排出量も削減できます。

自動車触媒

1974年に製造開始した自動車触媒は、マフラー部分に設置され、排ガス中の有害物質を除去します。

排ガス処理触媒

火力発電所、焼却炉、各種工場の排ガスに含まれる有害物質や悪臭物質を、長期にわたり効率よく分解します。



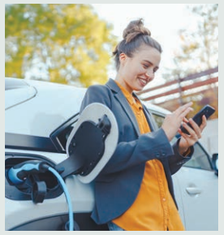
電池

電池性能の向上で広がる未来

リチウムイオン電池、固体酸化物形燃料電池（SOFC）など、
新エネルギー市場が拡大する中、複数のアイテムをグローバルに事業展開。

リチウムイオン電池用電解質 "LiFSI"（イオネル®）

高温下では劣化しやすく、低温下では性能を発揮しにくいというリチウムイオン電池の課題を解決。広い温度範囲で品質を安定させ、電池の長寿命化、高性能化を実現しました。



固体酸化物形燃料電池（SOFC）用電解質シート（ジルコニアシート）

発電効率の高さから、次世代分散型クリーンエネルギーシステムとして急速な普及が期待される固体酸化物形燃料電池（SOFC）。その部材であるジルコニアシートの量産化を実現し、世界中のSOFCメーカーから高い評価を受けています。

水素

H_2

グリーン水素の普及を促進

使用時にCO_2を排出しないため、車載用や家庭燃料を始め航空機への利用も考えられている水素。特に再生可能エネルギーを利用してつくられる「グリーン水素」は、サステナブルなクリーンエネルギーとして期待されています。

SOLUTION for LIFE

アンモニア分解触媒

分解して水素を取り出せるアンモニアは、液化しやすく、貯蔵・輸送面とコスト面でも優れた水素キャリアです。日本触媒では、アンモニアから水素を取り出す過程で不可欠なアンモニア分解触媒の製品化を進めています。

アルカリ水電解用セパレータ

アルカリ水電解用セパレータは、再生可能エネルギーを利用したグリーン水素の製法として注目される「アルカリ水電解」に使われる素材です。当社独自の有機無機複合技術とシート成形技術により水素のコスト低減に貢献します。

改革を推進する化学

エレクトロニクス・イメージング

デジタル技術の進歩によって
高度化するお客様のニーズに
高機能材料で応えます。

半導体・通信

新素材の量産化技術を確立

社会のデジタル化とともにそれを支える半導体・通信市場が飛躍的に成長し続けています。
日本触媒は、半導体に必要とされる新素材の量産化技術を確立し、電子デバイスの発展を支えます。

アクリキュアー®HD

電子デバイスから熱を逃がす働きをする放熱シートに柔軟性を与えます。シロキサンフリーで電子回路の導通不良を起こす心配がありません。

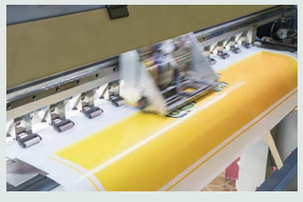
シーホスター®

粒度分布がシャープで高純度なシリカ微粒子・シーホスター®は、技術革新が進む当該分野において、フィラーとして高品質・高信頼性を提供します。

パッケージング・プリンティング

環境規制が進む欧米を中心に需要が拡大

UVインクジェット市場は、デジタル印刷の普及、揮発性有機化合物（VOC）の規制強化により堅調に拡大しています。日本触媒の環境にやさしい無溶剤型UVインク用材料はさまざまな用途に使用されています。



VEEA®

優れたUV硬化性と低粘度を活かし、ラベル印刷やQRコード印刷などの繊細な印字が求められるUVインクジェットインクに広く使用されています。

AOMA®

独自のモノマー設計で、アクリル樹脂の課題である硬脆さを解決し、硬さと強靭性を両立。3Dプリンタ用樹脂や接着剤、コーティング材の一成分として注目されています。

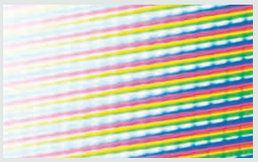
ディスプレイ

電子情報材料の高機能化を可能に

ディスプレイは大型化・薄型化・低消費電力化などが進み、高い透明性、
高精細および高耐久性など、より難易度の高い性能が要求されています。
日本触媒はさまざまな角度からそれらの課題を解決する素材を提供しています。

アクリビュア®

新規ポリマー設計技術により、高い透明性と光学特性、耐熱性を兼ね備えた、光学フィルム用アクリル樹脂。テレビやスマートフォン、タブレット端末などの液晶ディスプレイの大型化・薄型化に大きく貢献しています。



アクリキュアー®

高コントラスト、高色純度に対応する顔料分散レジスト用樹脂として開発。優れた耐熱性、耐熱着色性、顔料分散性を有しています。

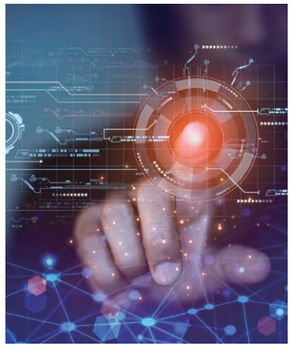
微粒子

耐熱性、耐溶剤性、分散性に優れたアクリル系の微粒子・エポスター®。透明性と高屈折率が要求されるコーティング材料/成型材料等に最適なジルコニアナノ粒子・ジルコスター®など、独自の技術で開発したナノ～ミクロンサイズまでさまざまな素材の微粒子を取り揃えています。

SOLUTION for LIFE

ディスプレイの未来に挑戦

液晶・有機ELディスプレイが世界的に拡大する一方で、車載・VR・空中ディスプレイなど多様な次世代ディスプレイの開発も進んでおり、さまざまな構成材料が求められています。日本触媒では、これまでに培った光学特性・力学特性・熱特性・分散性などに関する知見を応用し、それらを複合させた開発品の提供によりディスプレイ市場の発展、快適なデジタル社会の実現を目指します。



暮らしを支える化学

生活関連

住宅、健康・医療、化粧品など、
衣・食・住に密接した製品を提案し、
人々の豊かな暮らしに貢献します。

生活消費財

日常生活に豊かさと快適さを

環境に配慮した日本触媒の製品は、世界トップシェアの紙おむつ材料をはじめ、洗剤、塗料など身の回りのものに使われ、生活必需品として快適な暮らしを支えています。

高吸水性樹脂 アクアリック®CA（紙おむつ）

世界トップの生産量※を誇る高吸水性樹脂。1gで100～1,000gもの水を吸い取ることができ、紙おむつのほかカイロや芳香剤にも活用されています。 ※自社調べ

ソフタノール®（洗剤）

衣料・台所用洗剤、繊維助剤、金属洗浄剤など幅広い分野で使用可能な界面活性剤。生分解性に優れ、環境にやさしい面でも高く評価されています。

アクリル酸エステル（塗料）

トップクラスのメーカーとして、世界中のお客様に高品質のアクリル酸エステル類を安定供給。塗料、粘着剤の材料として幅広く利用されています。

インフラ・住宅

構造物の長寿命化で循環型社会の実現へ

日本触媒は、コンクリートの硬度と耐久性を向上させる素材や超耐候性を実現する建築・建材塗料用樹脂によって、土木・建築の経年劣化や災害によるダメージを軽減し、循環型社会の実現に貢献しています。

アクアロック®（コンクリート）

独自に開発したポリカルボン酸系ポリマー・アクアロック®は、コンクリートの強度・耐久性を高めるだけでなく、施工性改善に大きく寄与します。

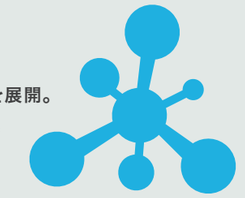
ユーダブル®（建築・建材塗料用樹脂）

紫外線安定能力のあるヒンダードアミンの持続効果により、これまでにない超耐候性が実現。塗料のほか、各種コーティング剤に使用できます。

ライフサイエンス

ニーズが高まる健康・医療、化粧品領域で躍進

健康・医療領域では中分子原薬（核酸、ペプチド）の受託製造および創薬支援を行う事業を展開。
化粧品領域では素材開発を行うなど、人々の健康と美に関わるフィールドで躍進しています。



健康・医療

核酸・ペプチド医薬原薬などの中分子原薬の受託製造や、DDS※技術の開発を通じて、原薬提供や創薬支援を行い、人々の健康・医療を支えていきます。

※DDS（Drug Delivery System）：必要な薬物を、必要な「量」「時間」「部位」で作用するようコントロールするための薬物送達システム

〈中分子原薬受託製造〉

探索研究段階（non-GMP）から臨床段階（GMP）の受託製造まで、さまざまなスケールに対応することが可能です。また、合成法開発やスケールアップ検討、分析法開発を行ってお客様の医薬品開発をサポートしています。

化粧品

「化学の力で、美を創造する」ことをテーマに、独自の素材や技術を活用して美と健康の課題に取り組みながら次世代化粧品素材を開発。化粧品メーカーとの協業も行いながら、高付加価値材料の提供と「提案型化粧品事業」を目指しています。

〈スキンケア・ヘアケア〉

肌や髪をコーティングしてダメージを防ぐ多機能性ポリマーや髪への染毛剤の染色性を上げる素材、有効成分の肌への浸透性を高める加工技術などを開発。スキンケア・ヘアケア・メーキャップ市場でのパーソナルケア多機能原料など化粧品素材ニーズへの対応を図っています。

SOLUTION for LIFE

ヘテロ2本鎖核酸（HDO）

HDOは、疾患部位へ選択的に薬効成分が届くよう構造を工夫した革新的な技術で、今までの核酸医薬で課題だった体内での安定性や副作用の問題を克服することを期待されています。グループ会社とともに、HDOの早期実用化を目指しています。

バイオ×化学の力

日本触媒では化学技術と天然素材やバイオ素材の技術を融合させて、高機能かつ顧客ニーズに沿った化粧品素材・技術を開発しています。アンチエイジング効果のある植物エキスや微生物の力でつくられるバイオ素材、天然素材の機能性を高める発酵技術や加工技術など、ユニークな素材を開発し、お客様に提供していきます。

日本でも、世界でも。
広くて深いネットワークが
提案力を支える。

化学品の製造をはじめ、加工、運輸、商社など各分野のエキスパート企業が連携。
そして、ヨーロッパからアメリカ・アジアまで幅広く展開するグローバルな生産・供給体制。
この国内外の広くて深いネットワークによって、お客様の要望に迅速かつ的確に応えます。

姫路製造所

90万m²の敷地に広がる姫路製造所は、日本触媒の主力工場として、アクリル酸や高吸水性樹脂をはじめとした、多様な製品を生産しています。

川崎製造所

1959年、国産技術で初めて酸化エチレンを企業化した川崎製造所（千鳥工場・浮島工場で構成）は、現在、国内最大級の酸化エチレン製造装置が稼働しており、酸化エチレンおよびその誘導品を生産しています。

国内グループ会社

日本乳化剤株式会社
〒103-0024
東京都中央区日本橋小舟町4-1 伊場仙ビル
TEL 03-5651-5631　FAX 03-5651-5639

日宝化学株式会社
〒103-0023
東京都中央区日本橋本町4-8-15 ネオカワイビル
TEL 03-3270-5341　FAX 03-3270-3401

日触テクノファインケミカル株式会社
〒272-0011
千葉県市川市高谷新町9-1
TEL 047-328-1185　FAX 047-328-1189

東京ファインケミカル株式会社
〒105-0003
東京都港区西新橋2-4-12西新橋PR-EX 4階
TEL 03-3506-7666　FAX 03-3506-7671

中国化工株式会社
〒710-0802
岡山県倉敷市水江1575
TEL 086-465-3555　FAX 086-465-7843

日本ポリマー工業株式会社
〒671-1241
兵庫県姫路市網干区興浜2114
TEL 079-273-4121　FAX 079-273-4601

ユミコア日本触媒株式会社
〒479-0882
愛知県常滑市りんくう町1-25-19
TEL 0569-38-7670　FAX 0569-38-7678

日本メタアクリルモノマー有限会社
〒103-6020
東京都中央区日本橋2-7-1 東京日本橋タワー
TEL 03-5201-0240　FAX 03-5201-0448

ジャパンコンポジット株式会社
〒103-0022
東京都中央区日本橋室町2-3-1
室町古河三井ビルディング（COREDO室町2）8階
TEL 03-3516-3002　FAX 03-3516-3090

レナセラピューティクス株式会社
〒100-0004
東京都千代田区大手町1-9-2 大手町フィナンシャルシティグランキューブ3階 Global Business Hub Tokyo
TEL 03-4243-6081

株式会社日本触媒トレーディング
〒103-0013
東京都中央区日本橋人形町1-14-8
JP水天宮前ビル2階
TEL 03-5695-4021　FAX 03-5695-4024

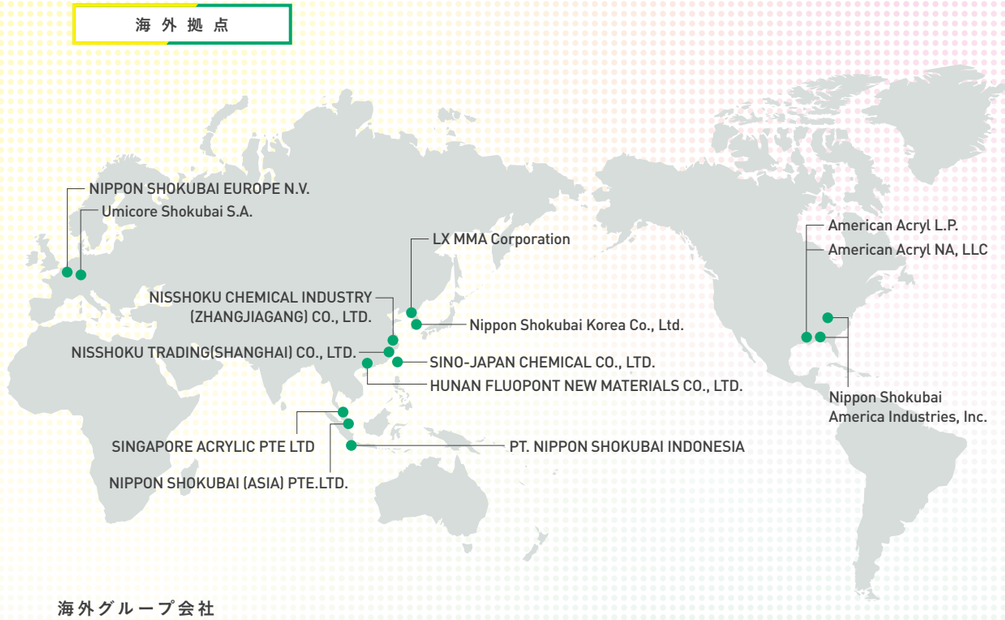
日触物流株式会社
〒541-0043
大阪市中央区高麗橋4-1-1 興銀ビル5階
TEL 06-6202-5267　FAX 06-6233-2475

株式会社日触エンジニアリングサービス
〒671-1241
兵庫県姫路市網干区興浜字西沖992-5
TEL 079-272-0677　FAX 079-271-5188

株式会社エヌエス保険サービス
〒541-0043
大阪市中央区高麗橋4-1-1　興銀ビル2階
TEL 06-6221-1471　FAX 06-6221-1474

有限会社エヌ・エス・グリーン
〒671-1241
兵庫県姫路市網干区興浜字西沖992-1
TEL 079-273-4744　FAX 079-273-4744

株式会社キャトックス
〒660-0843
兵庫県尼崎市東海岸町1-46
TEL 06-6409-1301　FAX 06-6409-1302



海外グループ会社

アメリカ

Nippon Shokubai America Industries, Inc.
住　所　4631 Old Highway 146, Suite A, Pasadena Texas 77507, USA
連絡先　TEL：+1-832-284-4033

American Acryl NA, LLC
住　所　4631 Old Highway 146, Suite B, Pasadena Texas 77507, USA

American Acryl L.P.
住　所　4631 Old Highway 146, Suite B, Pasadena Texas 77507, USA

ヨーロッパ

NIPPON SHOKUBAI EUROPE N.V.
住　所　Haven 1053, Nieuwe Weg 1B-2070 Zwijndrecht Belgium
連絡先　TEL：+32-3-250-3705

Umicore Shokubai S.A.
住　所　5 rue Bommel, Zone d' Activites Economiques Robert Steichen, L-4940, Bascharage, Luxembourg

アジア

PT. NIPPON SHOKUBAI INDONESIA
住　所　Kawasan Industri Panca Puri Jl. Raya Anyer Km. 122 Ciwandan, Cilegon 42447 Banten, Indonesia
連絡先　TEL：+62-254-600-660

NIPPON SHOKUBAI (ASIA) PTE.LTD.
住　所　80 Robinson Road #18-02 068898, Singapore
連絡先　TEL：+65-6532-0078

SINGAPORE ACRYLIC PTE LTD
住　所　80 Robinson Road #18-02 068898, Singapore
連絡先　TEL：+65-6532-0078

NISSHOKU CHEMICAL INDUSTRY (ZHANGJIAGANG) CO., LTD.
（日触化工（張家港）有限公司）
住　所　No.60 Nanhai Road, Yangtze River International Chemical Industrial Park, Zhangjiagang, Jiangsu 215634, China
連絡先　TEL：+86-512-5893-7910

HUNAN FLUOPONT NEW MATERIALS CO., LTD.
（湖南福邦新材料有限公司）
住　所　No.11 Yunsheng Road, Songmu Economic Development Zone, Shigu District, Hengyang, Hunan 421000, China
連絡先　TEL：+86-734-8159-280

NISSHOKU TRADING(SHANGHAI) CO., LTD.
（日触商貿（上海）有限公司）
住　所　R/No.3604, The Center, 989 Changle Road Shanghai 200031, China
連絡先　TEL：+86-21-5407-5959

SINO-JAPAN CHEMICAL CO., LTD.
（中日合成化學股份有限公司）
住　所　14Fl, 99, Sec.2, Jen Ai Rd., Taipei 100014, Taiwan
連絡先　TEL：+886-2-2396-6223

LX MMA Corporation
住　所　23F, LG Seoulstation Building, 98, Huam-ro Jung-gu, Seoul 04637, Korea
連絡先　TEL：+82-2-6930-3800

Nippon Shokubai Korea Co., Ltd.
住　所　12F Dowon Bldg., 34, Mapo-daero, Mapo-gu Seoul, 04174, Korea
連絡先　TEL：+82-2-704-9113

概 要

会社名

株式会社日本触媒
NIPPON SHOKUBAI CO., LTD.

創業

1941年(昭和16年)8月21日

資本金(2024年3月末)

250億円

売上収益(2023年度) ※単独は売上高

3,920億円(連結)　2,293億円(単独)

従業員数(2024年3月末)

4,607名(連結)　2,491名(単独)

事 業 所

大阪本社

〒541-0043
大阪市中央区高麗橋4-1-1 興銀ビル
TEL 06-6223-9111

東京本社

〒100-0011
東京都千代田区内幸町1-2-2 日比谷ダイビル
TEL 03-3506-7475

川崎製造所

(千鳥工場)
〒210-0865
神奈川県川崎市川崎区千鳥町14-1
TEL 044-288-7366
(浮島工場)
〒210-0862
神奈川県川崎市川崎区浮島町10-12
TEL 044-288-5715

姫路製造所および姫路地区研究所

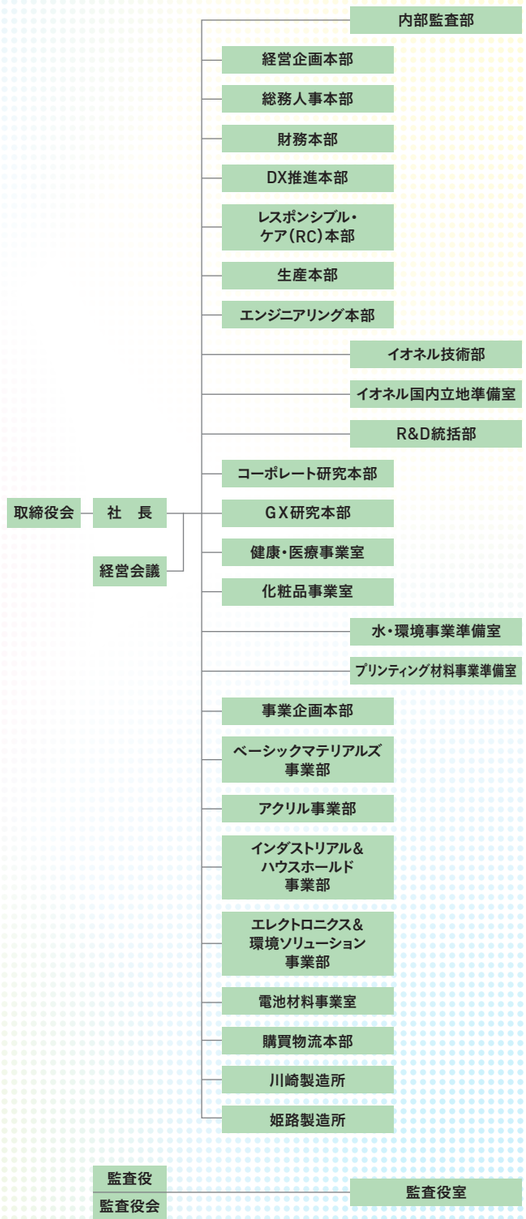
兵庫県姫路市網干区興浜字西沖992-1
〒671-1282　TEL 079-273-1131(製造所)
〒671-1292　TEL 079-273-1145(研究所)

吹田地区研究所

〒564-0034
大阪府吹田市西御旅町5-8
TEL 06-6317-2202

組 織 図

(2024年6月現在)



日本触媒グループの企業理念

TechnoAmenity

私たちはテクノロジーをもって
人と社会に豊かさと快適さを提供します

真の「豊かさ・快適さ」には、経済的・物質的な側面だけではなく、
私たちが暮らすこの地球環境との調和や、多様性・公平性・安全安心などの社会的・精神的な豊かさや快適さが含まれています。
当社グループは、企業理念を実践することで、
持続可能な社会の実現に貢献し、人と社会に豊かさと快適さを提供し続けていきます。

価 値 観

多様性を尊重します

私たちは、それぞれの違いを認め合い、
新たな価値を創造します

新たな可能性に挑戦します

私たちは、失敗を恐れず、
社会課題や顧客課題の解決に挑みます

地球環境保全に貢献します

私たちは、事業活動を通じ、
より良い地球環境を次世代につなぎます

行 動 規 範

私たち、日本触媒グループで働く一人ひとりは、常に以下の点を心がけ事業活動を行います。

01 持続可能な社会の実現
企業理念TechnoAmenityを実践することで、持続可能な社会の実現に貢献します。

02 安全最優先
常に社内外の安全を確保したうえで事業活動を遂行します。

03 コンプライアンス
あらゆる場面でコンプライアンスを徹底します。

04 人権の尊重
人権に関する国際的な規範を支持し、事業活動に関係するすべての人の人権を尊重します。

05 公正・誠実な事業活動
すべてのステークホルダーに対し、公正・誠実な事業活動を行います。

06 お客様への価値の提供
お客様から必要とされる素材・ソリューションを提供します。

07 環境の保全
テクノロジーをもって環境負荷低減と環境課題の解決に貢献します。

08 ステークホルダーとの対話
ステークホルダーへの情報発信と対話を積極的に行います。

09 多様な人財の活躍推進
多様性を尊重し認め合うことで個々人・組織の能力を最大限発揮します。

10 地域社会への貢献
地域社会の一員として、
地域社会の発展に貢献します。

社 是

「安全が生産に優先する」

さらなる変革に向けて

社会トレンド
- ●人口増加　●高齢化　●新興国経済の発展
- ●ニーズ多様化　●デジタル技術発達　等

社会課題
- ●安全安心・健康寿命の実現　●気候変動問題への対応
- ●技術発達を支える新素材　等

長期ビジョン

TechnoAmenity for the future

2030年の目指す姿

■人と社会から必要とされる素材・ソリューションを提供
■社会の変化を見極め、進化し続ける化学会社
■社内外のさまざまなステークホルダーとともに成長

3つの変革

2030年の目指す姿を実現させるため、次の3つの変革を進めていきます。

1 事業の変革

既存分野から成長分野へのポートフォリオ変革を進めます。収益性の高いソリューションズ事業を拡大しつつ、事業基盤強化に向けマテリアルズ事業を抜本的に立て直していきます。

2 環境対応への変革

2050年カーボンニュートラル実現に向け、例えばCO_2削減やリサイクル、脱炭素への取り組みなど、当社として果たすべきサステナビリティの実現を強力に進めます。

3 組織の変革

多様な人財がいきいきと働く会社への変革、成長し続ける組織への変革を目指します。具体的には、判断の迅速化を図るために、権限委譲を進めます。またチャレンジする人財を評価する人事制度の導入を行います。

社会・環境の変化に柔軟に対応し、進化し続ける化学会社へ。

マテリアルズ事業

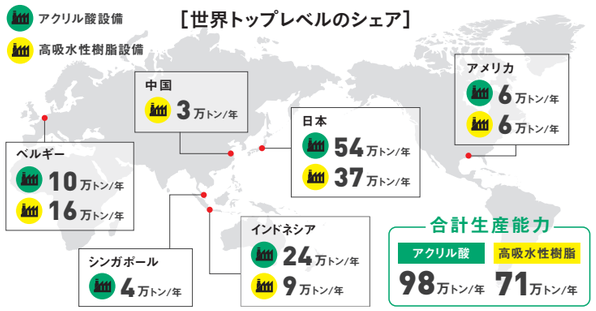
高品質の素材を高い生産技術力で、グローバルに安定供給。

酸化エチレン

［国内最大の生産能力］

アクリル酸・高吸水性樹脂

［世界トップレベルのシェア］



ソリューションズ事業

キーマテリアル開発力を活かし、
以下の分野・市場の多様な顧客ニーズに応える独自の機能を提供。

環境・エネルギー
- 水
- 環境浄化
- 電池
- 水素

エレクトロニクス・イメージング
- 半導体・通信
- パッケージング・プリンティング
- ディスプレイ

生活関連
- 生活消費財
- インフラ・住宅
- ライフサイエンス

企業理念の実践がサステナビリティそのもの。

サステナビリティ基本方針

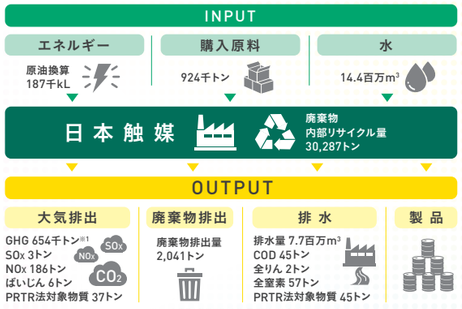
日本触媒は、グループ企業理念「TechnoAmenity　～私たちはテクノロジーをもって人と社会に豊かさと快適さを提供します」のもと、社会に貢献する志を掲げて事業活動を行っており、サステナビリティ活動の推進はグループ企業理念の実践そのものです。この考えに則り、当社の企業行動を経済・社会・環境の側面から総合的に捉え、企業統治、コンプライアンス、レスポンシブル・ケア、リスク管理、人権・労働、社会貢献、情報開示を経営の重点領域とし、顧客、取引先、従業員、地域社会、行政、株主・投資家など、さまざまなステークホルダーと対話を重ね、企業価値を高める活動を実践しています。また、事業活動を通じた社会課題の解決に努め、持続可能な社会の実現に貢献します。

気候変動への対応

環境問題の中でも気候変動問題は、製造、研究段階にとどまらない全社的な課題であることから、サステナビリティに関して当社経営の中核的なテーマの方針、戦略を決定する「テクノアメニティ推進委員会」で集中的に検討を行うこととし、2050年カーボンニュートラル実現に向けた取り組みを加速しています。

水資源の保全

水のサステナビリティを確保することは事業継続の必須条件であり、社会に対する我々の使命でもあると考えています。水資源の保全のため、効率的な水の使用、水質汚濁防止に取り組むとともに、製品・技術を通じた水問題への貢献も目指しています。



※2022年度日本触媒単体（本社・研究所などを含む）のデータです
※1 カーボンニュートラル都市ガスの購入によるカーボンクレジット量61千トン-CO₂のオフセットを含みます。

ダイバーシティ＆インクルージョン

社員の多様性を尊重し、一人ひとりの多様な能力・個性・価値観を認め合い集結し、日本触媒グループの総合力を高めるため、D&I推進方針を策定しました。誰もが自分らしく活躍できる組織を目指して、さまざまな施策に取り組んでいきます。

2021年認定 くるみんサポ 子育てサポートしています

人権

人権尊重を事業継続の基盤の一つと捉え、事業活動を行っています。「世界人権宣言」、ILOの「労働における基本的原則および権利に関する宣言」、国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」などの人権に関する規範に従い、人権尊重の取り組みを推進しています。また、当社グループの人権に関する基本方針に従って、人権侵害に加担することがないように、サプライチェーン全体を通して人権尊重の理解促進に努めます。

WE SUPPORT UN GLOBAL COMPACT

社会貢献

事業活動だけでは解決が困難な社会課題の解決を目的として社会貢献活動を行っています。【地域共創】【次世代人材育成】【Leave No One Behind実現】の3つを重点領域として設定し、取り組みを推進しています。

ガバナンス

企業価値を高め、持続的成長を図っていくためには、実効性の高いコーポレート・ガバナンスの実現が重要であると捉え、株主の権利・平等性の確保と対話、さまざまなステークホルダーとの適切な協働、適切な情報開示と透明性の確保、取締役会・経営陣の役割・責務の適切な遂行、執行に対する適切な監督、内部統制システムの充実・強化など、コーポレート・ガバナンスの強化・充実の取り組みを行っています。

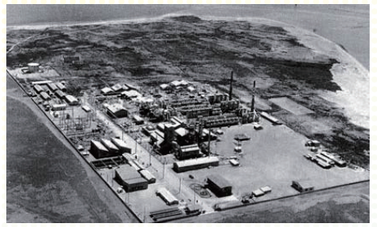
日本触媒の歴史は、挑戦と革新の歩み。

沿革

ヲヌメ合成化学工業株式会社設立-1941
吹田工場開設-1943
社名を「日本触媒化学工業株式会社」に改称-1949
大阪証券取引所（現東京証券取引所）市場第一部に上場-1952

建設中の第一酸化エチレン・エチレングリコールプラント（1959年）

東京証券取引所市場第一部に上場-1956
川崎工場（現 川崎製造所千鳥工場）開設-1959
姫路工場（現 姫路製造所）開設-1960
川崎第二工場（現 川崎製造所浮島工場）開設-1967



昭和36年当時の姫路工場全景（1961年）

「NA Industries, Inc.-1988
（現 Nippon Shokubai America Industries, Inc.）」設立

社名を「株式会社日本触媒」に改称-1991

「PT. Nisshoku Tripolyta Acrylindo-1996
（現 PT. NIPPON SHOKUBAI INDONESIA）」設立
「American Acryl NA, LLC」「American Acryl L.P.」設立-1997
「NIPPON SHOKUBAI (ASIA) PTE. LTD.」設立-1998
「NIPPON SHOKUBAI EUROPE N.V.」設立-1999

住友化学工業株式会社との事業交換によるアクリル酸事業の譲受-2002
およびMMAモノマー事業の譲渡
「NISSHOKU CHEMICAL INDUSTRY (ZHANGJIAGANG) CO., LTD.-2003
（日触化工（張家港）有限公司）」設立

住友化学工業株式会社のシンガポールアクリル酸事業の譲受-2004

「NISSHOKU TRADING（SHANGHAI）CO., LTD.-2007
（日触商貿（上海）有限公司）」設立
日本乳化剤株式会社およびSINO-JAPAN CHEMICAL CO., LTD.-2008
（中日合成化學股份有限公司）の子会社化

吹田工場閉鎖、同地区は研究開発拠点となる-2015
「Nippon Shokubai Korea Co., Ltd.」設立-2015

「レナセラピューティクス株式会社」の子会社化-2019

市場第一部からプライム市場へ移行-2022

技術革新の歴史

1940
1941-わが国で初めて無水フタル酸の工業化に成功

1952-ベンゾール酸化による無水マレイン酸の量産化に成功
1953-自社技術による不飽和ポリエステル樹脂をわが国で初めて工業化
1955-フマル酸製造開始

1960
1959-自社技術によるわが国初の酸化エチレン工業化
1960-酸化エチレン、エチレングリコールの企業化で大河内記念賞を受賞
1962-エタノールアミン製造開始
1967-アンモオキシデーション法によるフタロニトリルならびにベンゾニトリルの製造技術の確立で有機合成化学協会賞（技術的）を受賞
1969-エチレンイミン製造開始
1970-プロピレン酸化法によるアクリル酸、アクリル酸エステルをわが国で初めて工業化
1972-セカンダリーアルコールエトキシレート製造開始
1972-アクリル酸、アクリル酸エステルの製造技術で大河内記念生産賞を受賞
1973-アクリル酸製造技術で科学技術庁長官賞を受賞
1974-自動車触媒製造開始
1976-セカンダリーアルコールエトキシレート製造技術で石油学会技術進歩賞を受賞
1976-川崎第一工場、高圧ガス優良製造所として通商産業大臣表彰を受賞
1978-セカンダリーアルコールエトキシレート製造技術で大河内記念生産賞を受賞
1979-球状微粒子製造開始
1979-姫路製造所、熱管理優良工場として資源エネルギー庁長官賞を受賞
1982-メタクリル酸、メタクリル酸メチルエステル実証プラント完成
1985-高吸水性樹脂本格製造開始

1980
1987-ポリカルボン酸エーテル系ポリマー製造開始
1987-メチルメタクリレートの製造技術で石油学会学会賞を受賞
1987-メタクリル酸製造用触媒の開発で触媒学会技術賞を受賞
1987-ポリフルオロ芳香族化合物の高効率合成法の確立とその工業化で有機合成化学協会賞（技術的）を受賞

1989-アンモニア乾式排煙脱硝用触媒の開発で触媒学会技術賞を受賞

1992-エチレンイミン新規製造法の開発で日本化学会化学技術賞を受賞
1996-マレイミド類の新製造プロセスの開発と工業化で日本化学会化学技術賞を受賞
1997-ダイオキシン類分解触媒製造開始

2000
2000-燃料電池材料事業化
2002-N-ビニルピロリドン製造開始

2003-N-ビニルピロリドン製造技術でKirkpatrick Award（ケミカルエンジニアリング社）を受賞
2003-無水フタル酸設備の撤去・解体

2006-光学材料用アクリル樹脂製造開始
2006-エタノールアミン新規製造技術で、日本化学会化学技術賞、化学工学会技術賞、触媒学会学会賞（技術部門）の3賞を同時受賞
2007-N-ビニル-2-ピロリドン新規製造法の開発で日本化学会化学技術賞を受賞

2009-ジエタノールアミン新規製造技術で大河内記念技術賞を受賞
2014-光学フィルム用ラクトン環含有アクリルポリマーの開発と工業化で日本化学会化学技術賞を受賞
2014-リチウムイオン電池用電解質事業化

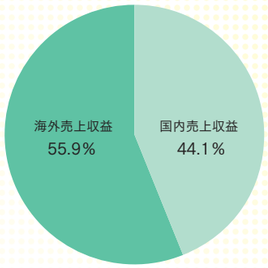
2020
2019-中分子原薬合成施設完工

営業成績、財産状況

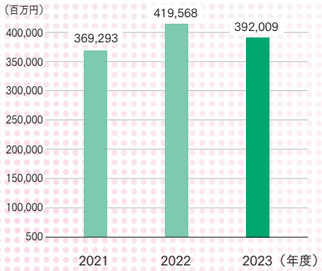
項　目	2021年度 ('21.4～'22.3)	2022年度 ('22.4～'23.3)	2023年度 ('23.4～'24.3)
売上収益（百万円）	369,293	419,568	392,009
税引前利益（百万円）	33,675	26,175	15,744
親会社の所有者に帰属する当期利益（百万円）	23,720	19,392	11,008
基本的1株当たり当期利益（円）	148.72	122.07	70.48
資産合計（百万円）	518,151	523,319	544,060
資本合計（百万円）	351,123	369,998	392,562
ROA（資産合計税引前利益率）(%)	6.8	5.0	2.9
ROE（親会社所有者帰属持分当期利益率）(%)	7.2	5.5	3.0

（注）2024年4月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。2021年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、「基本的1株当たり当期利益」を算定しております。

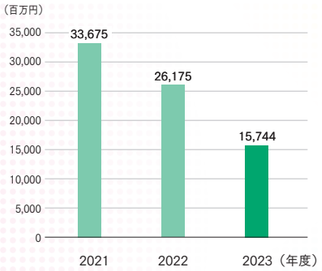
海外・国内売上収益比率（2023年度）



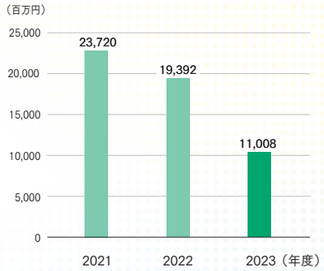
売上収益



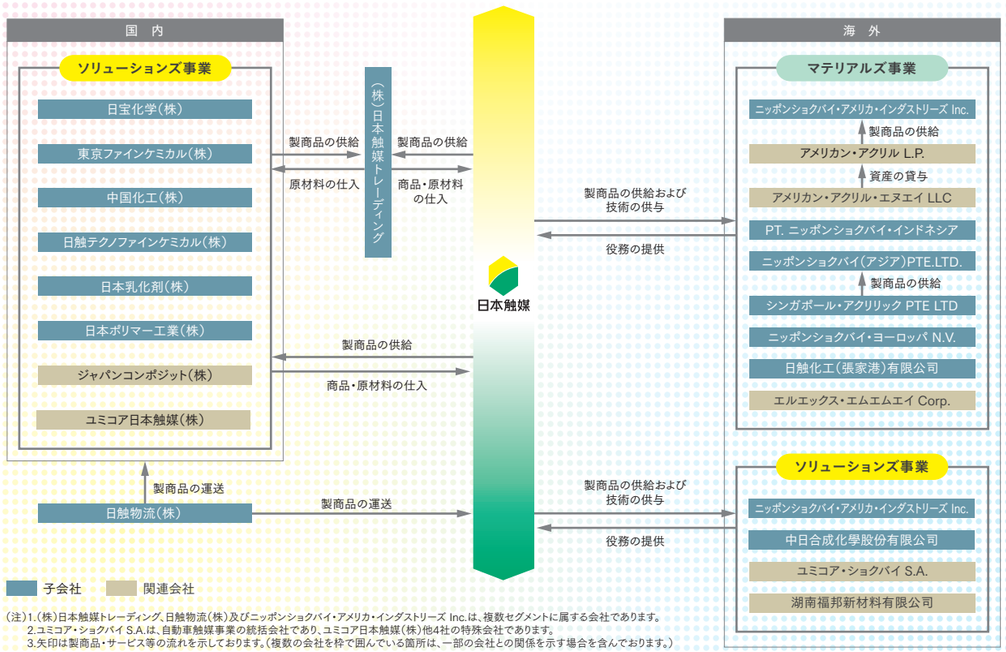
税引前利益



親会社の所有者に帰属する当期利益



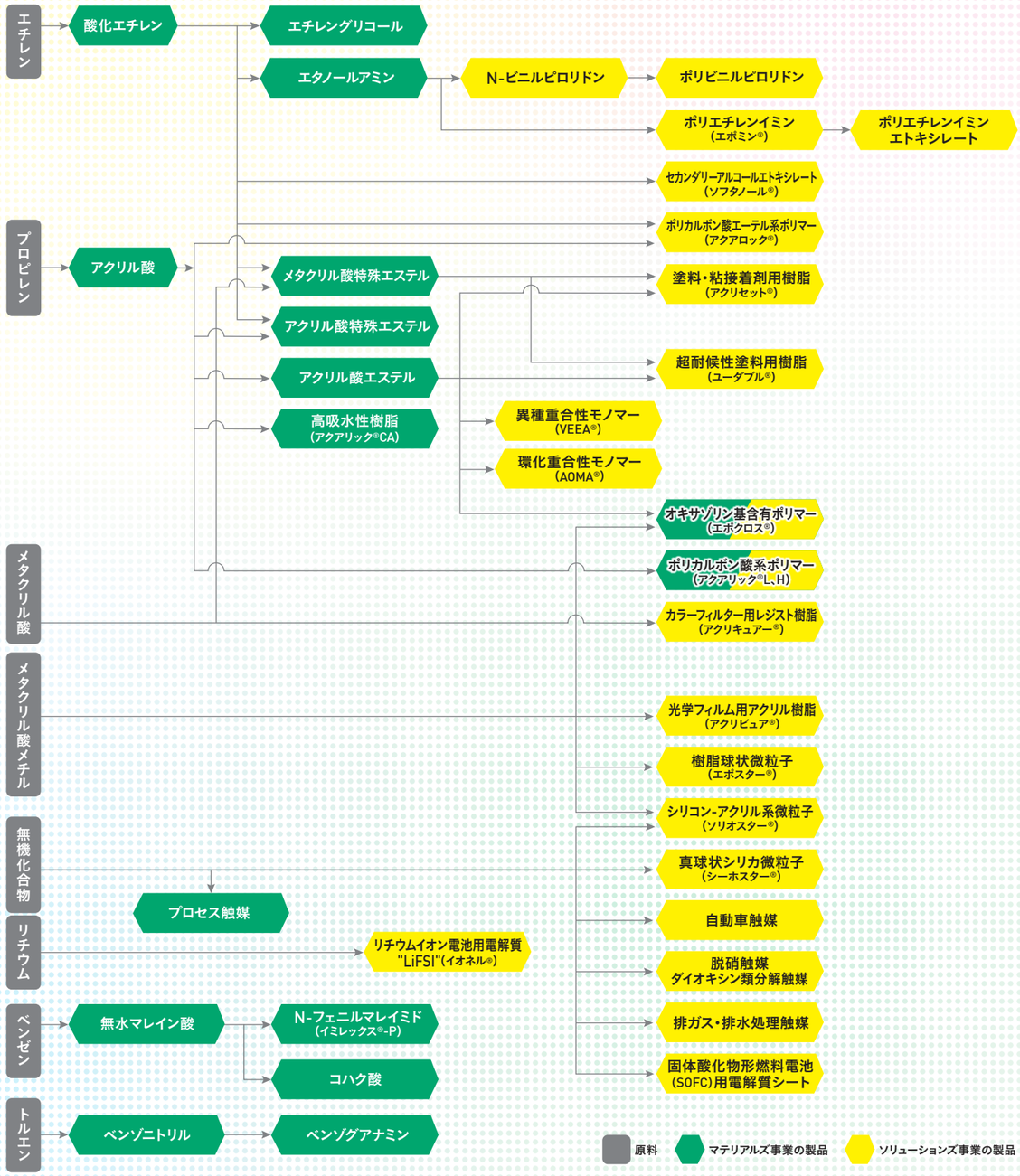
連結グループの状況（2024年3月31日現在）



（注）1.（株）日本触媒トレーディング、日触物流（株）及びニッポンショクバイ・アメリカ・インダストリーズ Inc.は、複数セグメントに属する会社であります。
2.ユミコア・ショクバイ S.A.は、自動車触媒事業の統括会社であり、ユミコア日本触媒（株）他4社の特殊会社であります。
3.矢印は製商品・サービス等の流れを示しております。（複数の会社を枠で囲んでいる箇所は、一部の会社との関係を示す場合を含んでおります。）

時代や社会の変化に寄りそう製品たち。

時代の変化とともに高度化・複雑化していくさまざまな課題や要望に応えるべく、
より高い付加価値を持つ多彩な製品を生み出し続けています。



（2024年6月現在）